
令和3年度 第1回山形のみちづくり評議会 議事要旨

■ 日時

令和3年6月9日（水）13：35～14：45

■ 出席委員

柴田会長、貝山委員、大泉委員、塩原委員、津藤委員、宮原委員、橋本委員、前内委員 8名

■ 議事

議題 新広域道路交通ビジョン・計画（最終案）について

■ 議事概要

議題 新広域道路交通ビジョン・計画（最終案）について

・事務局より議題に関して、以下の説明を行った。

1)新広域道路交通ビジョン・計画（最終案） 資料1

1-1 概要

1-2 新広域道路交通ビジョン

1-3 新広域道路交通計画

1-4 パブリックコメント対応

・新広域道路交通ビジョン・計画（最終案）について委員より意見を頂いた。

■ 第1回山形のみちづくり評議会における主な意見

各議題について、以下のような意見が挙げられた。

議題 新広域道路交通ビジョン・計画（最終案）について

【高規格道路について】

(1) 石巻新庄道路について

- ・ 酒田港から宮城県や岩手県への物流に利用される新庄以東の区間が勾配や線形が厳しいので、宮城県や岩手県の工場にモノを運ぶためにも、目的地まで真っ直ぐに行くことができれば良い。この道路の整備に力を入れて欲しい。
- ・ 石巻新庄道路について、山形県として早期に開通して欲しいという思いを宮城県にも提示していく必要がある。東北全体にとっても大切な道路である。

(2) 新潟山形南部連絡道路について

- ・ 国道 113 号の整備は重要。東日本大震災の支援で活用された。将来の災害に備えて、新潟県や首都圏を意識し、強く押し出した計画にして欲しい。

(3) 月山道路について

- ・ 月山道路は短期間で整備出来る道路ではないので、10 年程度の計画スパンの中では、位置付けが難しかったものである。今回の 20～30 年間の計画だからこそ整備すべき路線として位置付けできている。既に、自動車専用道路として完成しているが、勾配が厳しいので、新たな発想で解決してくれないかという声に応えたものである。
- ・ 県民も月山道路は高速道路として未整備と思っているので、しっかりとやって欲しい。

(4) 路線全般について

- ・ この計画は今後の 20～30 年の計画で今までは国がつくっていた計画を、今回は地域の方から 20 年を考えてつくって欲しいということで、地方から国に対しての提案という形になっている。隣県と一緒に国に対して提案できるよう取り組んで欲しい。
- ・ 山形県は災害が多いので、ダブルネットワークを重視しながら整備して欲しい。
- ・ 地域の課題を吸い取って地域に合った整備を進めて欲しい。
- ・ コロナ禍でも貨物の交通量は減少せず、観光バスが激減したがコロナが収束すれば交通量は戻り、高速道路や道路整備は今後必要であると認識している。環境問題を考えてもエネルギーが変わるだけで、道路利用量は増加すると考えられ、これからも道路整備は必要と考えられる。

【一般広域道路について】

- ・ 山形市のパブリックコメントにある山寺～作並間の構想路線に関して、山寺～秋保間ということではないか。2 大観光地を結ぶ道路の事ではないか。

⇒（事務局）

- ・ 山形市において、山寺～秋保に加え山寺作並間のルートも検討し、今は山寺～作並間がより良いルートということになったと聞いている。

【防災拠点・新技術について】

- ・ 防災機能を持った道の駅に偏りがあることが整理されていて良い。
- ・ ETC2.0 や AI、ビックデータを用いた情報発信を行う必要がある。山形らしい情報発信を行って欲しい。今回はこれしか書けないのだと思うが次回の見直しの際は深みを増して欲しい。防災の観点から、道の駅での非常電源についてエネルギーを自活できるよう深みを持ってやって欲しい。
- ・ 水素など新エネルギーの利用の話もある。今はこのようにしか書かれていないが、将来の新エネルギーに関しても積極的に取り入れてみては。
- ・ 新エネルギーに関しては、カーボンニュートラル 2050 の中で、環境を新たな投資ととらえ、企業の研究に優遇するなどの動きがある。次回の見直しの時に盛り込んでみては如何か。
- ・ マイナスをプラスになる仕掛けを行って欲しい。強風により防雪柵が壊れるが、その風をエネルギーに変えて、除雪費に充てるなど考えて欲しい。

以上